



# 農作業メモ

## 小麦の今後の管理

令和2年産の小麦の播種は、11月中旬まで順調に進みましたが、11月下旬のまとまった降雨により、作業の遅れたほ場もありました。また、一部ほ場では滞水による出芽不良も確認されました。

11月25日気象庁発表の3か月予報では、向こう3か月の平均気温は平年並みか高いと予報されています。

暖冬年はまとまった降雨となりやすい傾向があります。今後は排水対策を徹底するとともに、生育に応じた栽培管理を適切に行い、収量・品質の向上に努めましょう。

### 1 排水対策

まだ排水対策を行っていないほ場では、地表水が速やかに排水できるように、排水溝を整備しましょう。

### 2 追肥

J Aくまがやの前年（令和元年）産小麦は子実中のたんばく質含量が基準

値以下となり、品質評価でBランクとなりました。品質評価は直接支払い交付金の金額に影響するため、農家の皆さんの所得にも影響します。適切な追肥を行い、品質・収量の向上を図りましょう。

子実中のたんばく質含量を高めるためには、生育後半の肥効が重要であり、特に「さとのそら」は生育後半に窒素吸収量が増加します。11月下旬の大雨前に播種（施肥）したほ場ほど、基肥の肥料成分が流亡していると考えられます。表1を参考に確実に追肥を行いましょう。石灰窒素入りの肥料は肥効が長く続くのでたんばく質含量の向上に有効です。

表1 追肥施用量の例

品種	施用量 (kg/10a)		
	化成肥料 17-0-17	硫安	さとのそら 追肥専用 (石灰窒素 4.5%)
さとのそら	12~24	10~20	20
あやひかり	12	10	-

◆施用時期の目安は茎立ち直前(3月中旬頃)です。

また、播種前に土壌改良資材を施用できなかった場合は、長期的な土づくりを考慮し、ケイ酸質資材などの土壌改良材を冬の間に施用しましょう。ケイ酸にはうどんこ病の発生軽減や、耐倒伏性向上などの効果があります。

### 3 麦踏み

麦踏みは根張りを良くし、耐倒伏性の向上や凍霜害防止等に効果があります。麦の3葉目が見え始めた頃を1回目の麦踏み開始の目安とし、茎立ち前（3月中旬頃）までに、2週間程度の間隔をあげ、合計3回を目標に実施しましょう。

播種が遅れたほ場では、初期生育が遅れ、分けつの増加が遅れます。麦踏みのできる葉枚数になったら確実に麦踏みを実施し、分けつの発生を促進させましょう。

### 4 雑草防除

雑草の発生が見られる場合は、茎葉処理剤を使用し、雑草の防除に努めましょう。（表2参照）

ほ場ごとの優先雑草や葉齢、小麦の

生育ステージを確認し、適期を逃さないように実施しましょう。

（大里農林振興センター 農業支援部）

表2 小麦の茎葉処理除草剤（雑草茎葉散布）の例

薬剤名	適用雑草	使用時期	薬液使用量 (10a) (散布液量)	使用回数
アクチノール乳剤	畑地一年生 広葉雑草	穂ばらみ期まで (雑草生育初期)	100-200ml (70-100ℓ)	2回以内
バサグラン液剤	一年生雑草 (イネ科を除く)	生育期(雑草の3~6葉期) 但し収穫45日前まで	100-200ml (70-100ℓ)	1回
ハーモニー75DF 水和剤	一年生広葉雑草	は種後~節間伸長前	5-10g (100ℓ)	1回
エコパート フロアブル	一年生広葉雑草	小麦節間伸長開始期まで (広葉雑草2~4葉期、ヤ エムグラ2~6節期)但 し、収穫45日前まで	50-100ml (100ℓ)	2回以内

農薬は2019年12月1日の登録状況に基づいています。農薬を使用する際は、必ず使用農薬のラベルを確認しましょう。また、周辺作物への飛散防止に努めましょう。